

橋爪紳也

前回紹介した大阪鉄道局の「スキー場を連絡する汽車一ト場案内」(昭和五年)では、京阪神とスキー場を連絡する汽車のダイヤとともに、初心者から上級者まで、それぞれに適したグレンデを推奨している。

ビギナー向きには、駅から近く、緩斜面があることを第一条件とする。この点からみれば、駅のすぐ裏にスキー場がある夜久野ヶ原、城崎、野原などが恵まれている。ただ、歩くことを意に介さない人には、伊吹山の一合目、杉ヶ澤、神鍋山麓、鐘尾、大江山麓なども良いスキー場

だとしている。また、二、三日ほど滞在して「スキーの快味」を満喫したい人には、菅平や妙高高原を勧めている。雄大さが「都人士の魂を魅了」するだけではなく、雪質が良いので上達も早い。これまでいぢごでも、この方面にでかけた経験のある人は「近廻りのコセコセしたスキー場でアクセク」していることが馬鹿らしくなるという。

中級の人には山野の跋涉

「ダー」ともに出向への良いと記す。

さらに「山を志す人」には、丹後の世屋、但馬の奥地、氷ノ山などを関西では最良と推す。同鉄道局が先に発行した「丹後半島及び但国播磨国境附近スキー場案内」を参照してほしいと書いている。

また、深雪地帯の白山方面は近年、中山再次郎氏が踏査しつつあるが、「真のスキーコース」を発見することは困難である。心ある

開いてみよう。これも昭和五年前後に印刷されたようだ。各スキー場の特徴に加えて、駅からの道程や宿屋の有無、近傍にある温泉や名所を記している。スキー客だけを安い料金で泊めてくれる土地もあるから、普通の服装で宿泊する際には「スキーに来た」と一言伝えるほうが良いといった注意書きも親切だ。

一例として世屋の項目を紹介しよう。宮津駅から五百メートルの距離にある

「場を順に概説してゆく。特に初心者を意識した編集が好ましい。『どんな服装をすればよいか?』といった自問に答えるかたちで、「本式にやる人は兎に角、一寸やってみようという人」が用意するべき服装を説明する。

「書物には随分いろいろなこと」が書いてあると前置きしたうえで、ラシャなどの古い洋服や防水登山服に、ハンチング、学生帽、正チャン帽の類、先の大きな編上靴、穴もなく縫ぎもあたっていない毛製の靴下、毛製の手袋、スポン下とシャツの着替え、黄色や煤色の眼鏡、雪が入らぬようスポンの裾をくぐる紐などがあれば大体よろしいと説いている。

ウインタースポーツ(2)

に出かけることを勧めている。山歩きをすることではじめてスキーの実力が養われ、本当の面白みがわかる。まずは手頃な練習場である伊吹山の三合目から四合目あたりでコツを覚えるのが良い。そのあと世屋、大江山、鉢伏山、大山、三瓶山などへ、しかるべき

人々の協力を切に待つと記している。良い斜面などの情報提供を依頼しているわけだ。鉄道局の案内書だが、その梓を越え、同好の士に向けた呼びかけのよう

のが良い。そのあと世屋、大江山、鉢伏山、大山、三瓶山などへ、しかるべき

今回は、神戸鉄道局が配布した「スキー場案内」を



旅行の御相談は下記へ

- 神戸鉄道局
- 大阪 滝道 案内所
- 大坂三越先軀店內線道案内所
- 大坂大丸先軀店内線道案内所
- 京都大丸先軀店内線道案内所
- 神戸大丸先軀店内線道案内所

こんな調子で各地のスキ